

# 海辺の海草藻場再生推進事業

長根 幸人

陸奥湾にはアマモ類による海草藻場がみられ、漁業にとって多様で重要な役割を果たしている。しかし、夏泊半島や下北半島の一部などで藻場が衰退、消失した。このため、スゲアマモ藻場の回復を目的に、スゲアマモの栄養株を移植し、海草藻場造成による水産資源の増大効果と水域環境浄化効果を把握する。

## 試験研究方法

平成16年4月30日に、川内町田野沢地先水深8.0mに1,000㎡（20×50m）の試験区を設定し、5月7日までの8日間、川内町川内地先の水深3mから採取した30シュートからなるスゲアマモ栄養株を50cm間隔で4,141株試験区に移植した（写真1）。平成16年5月7日には、試験区内の10m四方（100㎡）に蝸集する生物を観察した。平成16年10月7日には、移植株の脱落状況を観察し、試験区内の底棲生物を採取した。

## 結 果

平成16年5月7日に、マナマコが16個体、1,999g、イトマキヒトデが80個体、3,743g、ヒトデが80個体、3,051g、生息し、その他にタコヒトデ、エゾヒトデ、キタムラサキウニ、ハスノハカシパン、トゲクリガニ、マガレイが観察された（表1）。

スゲアマモ移植から5カ月経過後の平成15年10月5日に、スゲアマモは試験区の21%にあたる207㎡に生育する1,128株が脱落若しくはキタムラサキウニの食害を受け消失した。試験区からは、マナマコが42個体、3,651g採捕された。マナマコの重量は平均85.6gで、採取個体の74.8%が湿重量100g以下の小型個体であった（図1）。マナマコ以外では、キタムラサキウニが114個体、5,920g、ハスノハカシパンが10,142g採取された。また、試験区内では、尾叉長150mmのマダイの群泳と、全長50mm、200mmのマコガレイが確認された（写真2）。

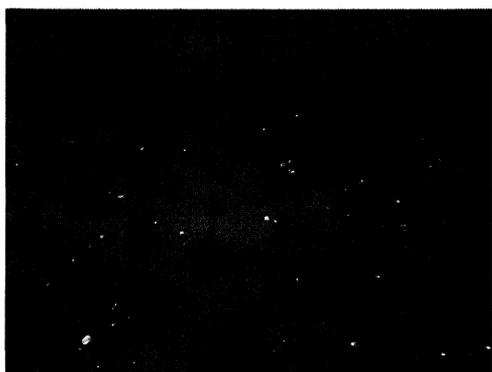


写真1 川内町田野沢地先にスゲアマモを移植した試験区

表1 平成16年5月7日にスゲアマモ栄養株を移植した試験区内の100㎡に生息した底棲生物

生物名	個体数	平均重量	総重量
マナマコ	16	124.9 <sup>g</sup>	1,999.0 <sup>g</sup>
イトマキヒトデ	80	46.8	3,743.0
ヒトデ	80	38.1	3,051.0
タコヒトデ	6	32.5	195.2
エゾヒトデ	1	3.8	3.8
キタムラサキウニ	2	45.7	91.3
ハスノハカシパン	2	8.8	17.5
合計	187		9,101



写真2 平成16年5月7日に試験区内で観察されたマナマコ（左）、トゲクリガニ（中央）及びマコガレイ（右）

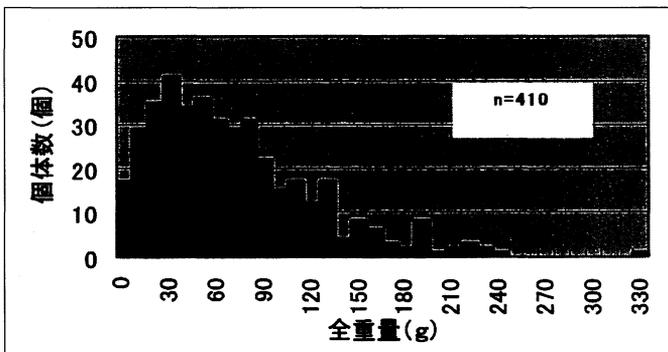


図1 平成16年10月7日に川内町田野沢地先で採取されたマナマコの湿重量の組成